

アサヒビールの 「新経営理念」と「企業行動指針」

新しい企業づくりは、新しい経営理念と 企業行動指針から始まる

持株会社の解禁、国際会計基準の導入など、世界の経営環境は企業をグループとして評価する潮流となっており、こうした企業を取り巻く内外の環境変化に対応することが求められている。アサヒビールとしてもアサヒビールグループの全員が、目標となる「将来像」や「夢」をはっきり認識し、共有化することが重要であると考え、新しい経営理念を本年1月に策定した。

経営理念とは、企業が目指すべき「夢」を社員全員から見えるように大きく掲げることである。同時に、企業にとっては全ての行動を「夢」の実現に向けていくための方針が必要になる。

そこで、今回、新経営理念の策定と併せて企業行動指針を策定した。

この企業行動指針は、8つの項目から構成されており、全ての項目が、グローバルスタンダード（世界標準）の企業経営を実現する上で必要な要素である。

社内に新しい流れを起こす

新経営理念が、広く全社員に認知され、新たな企業行動指針が、経営層によってまず率先垂範され、具体的な行動が促されることにより、企業の中心に新しい「流れ」を作り出すことが可能になる。その「流れ」の中で、全社員がもっと大きく速い「流れ」を作り出すことになる。この「流れ」こそまさに「夢」を実現しようとする企業の手であり、全社員の意識と行動の結集である。

新経営理念の策定により、アサヒビールグループの中に、今よりもっと力強い「流れ」を作り出すことが可能になろう。

経営理念

アサヒビールグループは、最高の品質と心のこもった行動を通じて、お客様の満足を追求し、世界の人々の健康で豊かな社会の実現に貢献します。

企業行動指針（項目のみ抜粋）

- お客様の満足
- 環境と安全への配慮
- 公正で透明性のある企業倫理
- 国際標準の企業行動
- 豊かな発想とバイタリティー溢れる企業風土
- 独創的でスピーディーな企業行動
- 自立と総合力のグループ経営
- 継続的で質の高い成長